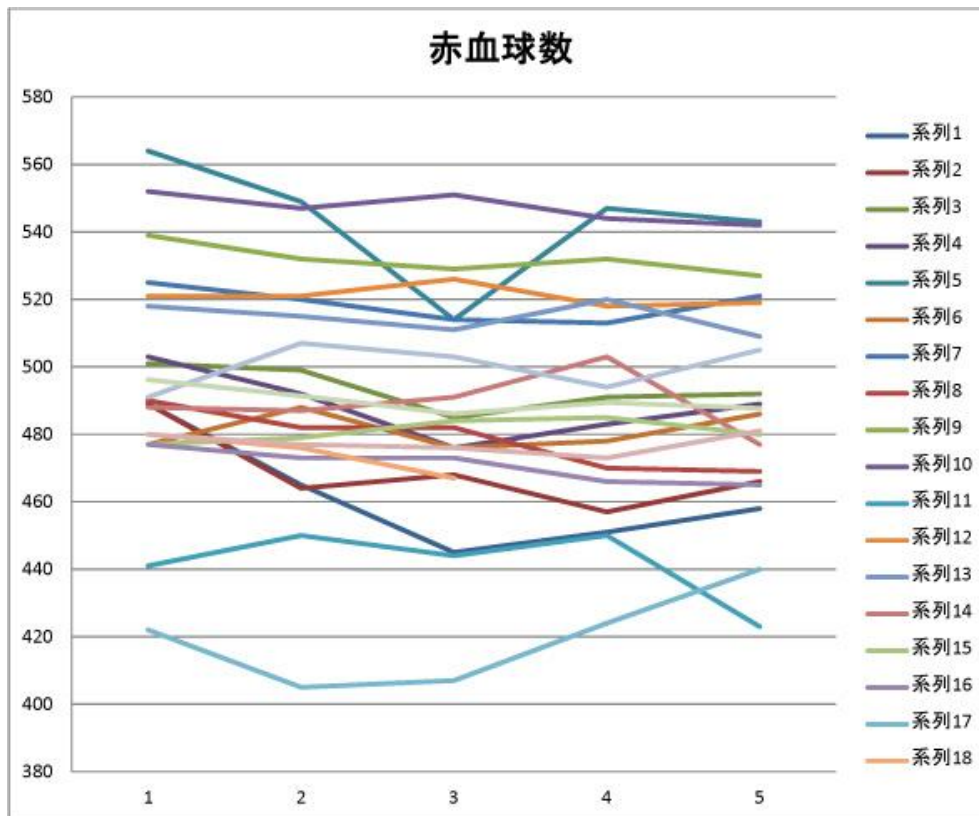


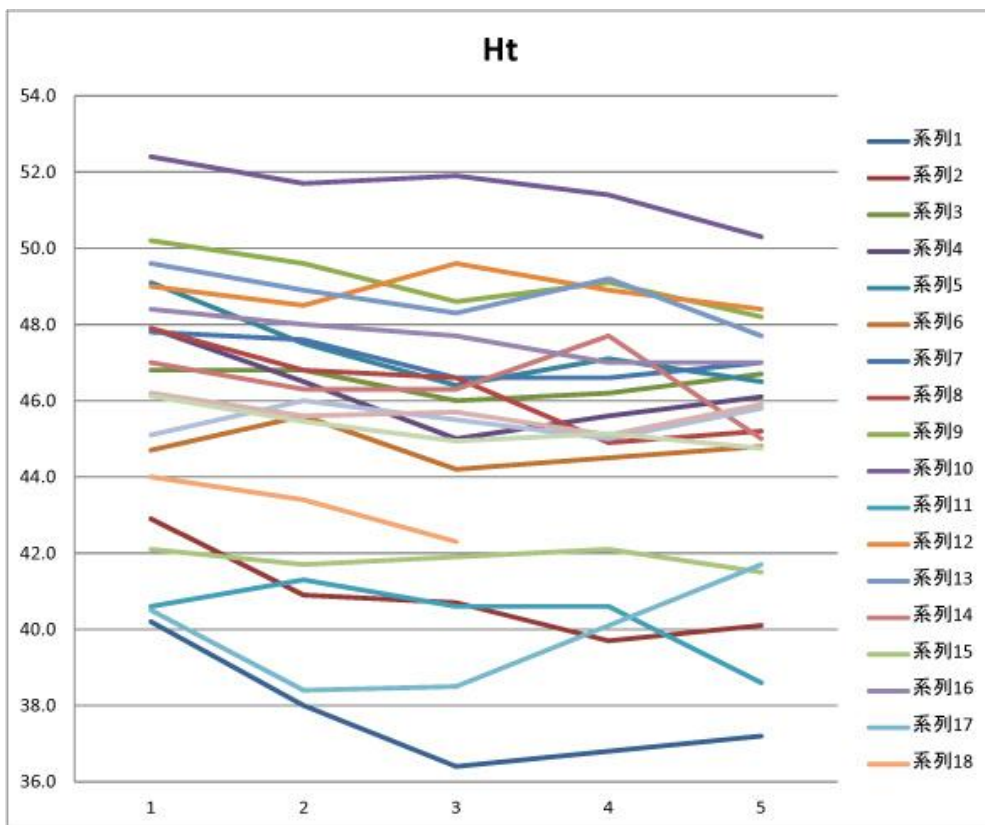
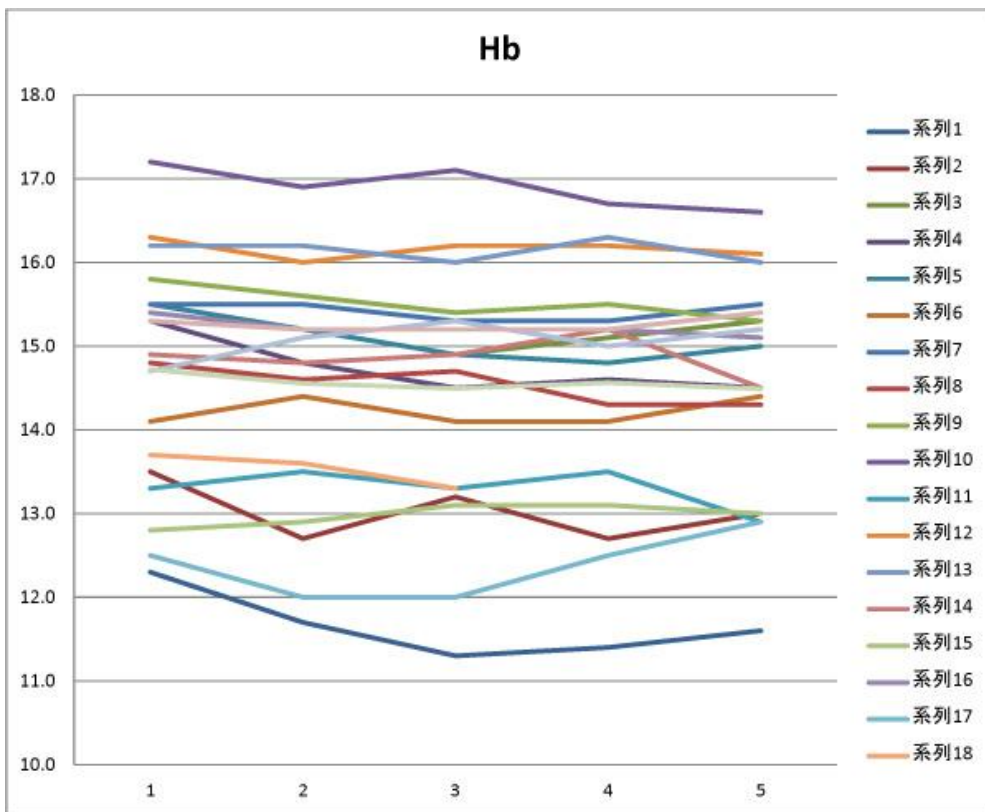
腱引き療法における血中検査 1

末梢血の血球検査結果

① 赤血球系



赤血球数はわずかに減少傾向が見られるように思います。5番の三木さんの3回目目が514と極端に少ないですが、HB、HTは正常範囲内ですので、赤血球数のみ測定ミスだと思います。



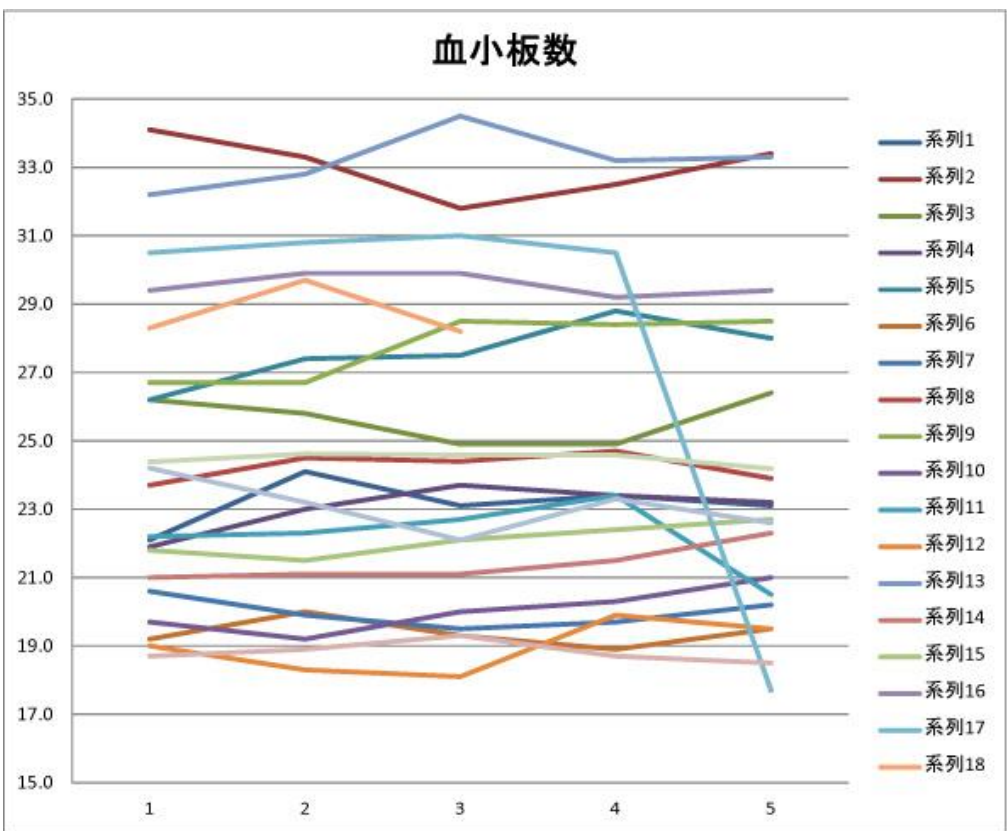
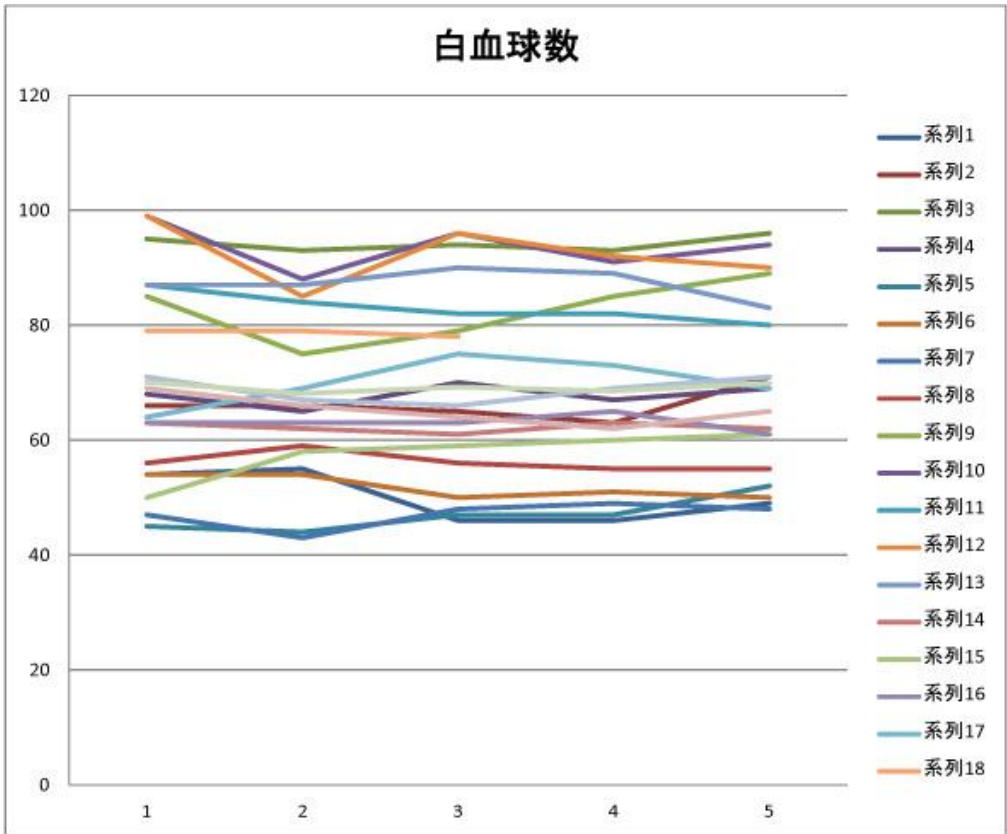
H B、H T両方とも、減少傾向が見られます。

この変化に有意差があると仮定して話をすすめると次のようになります。

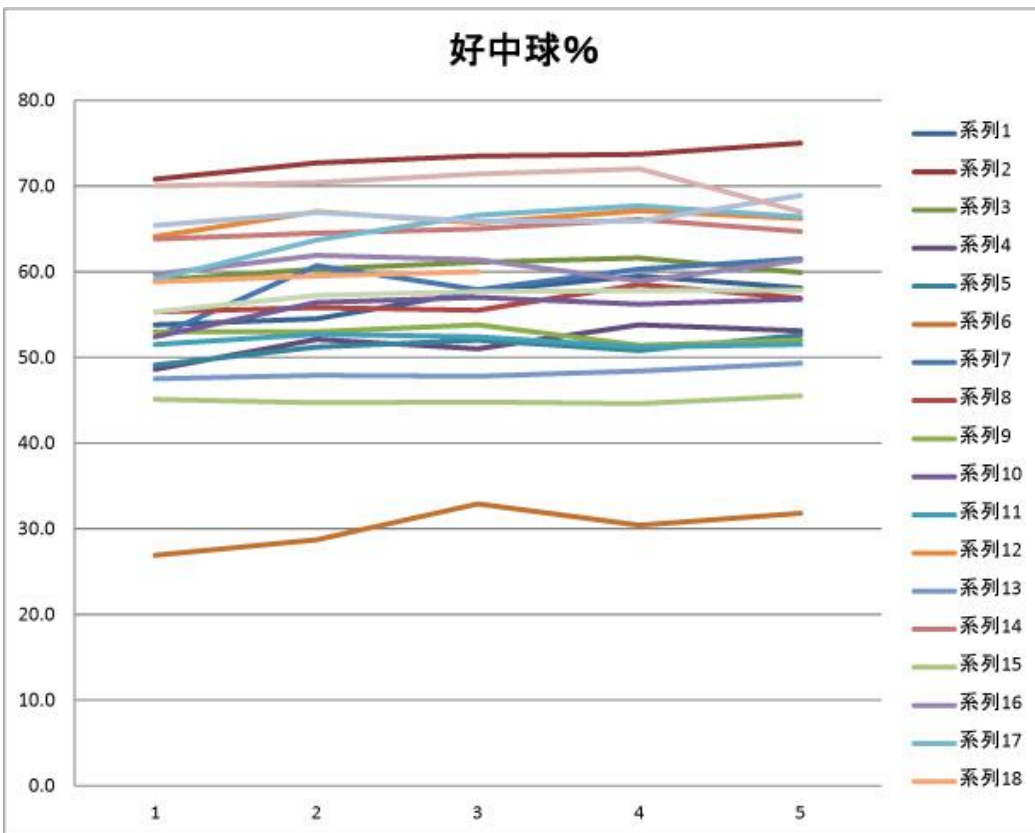
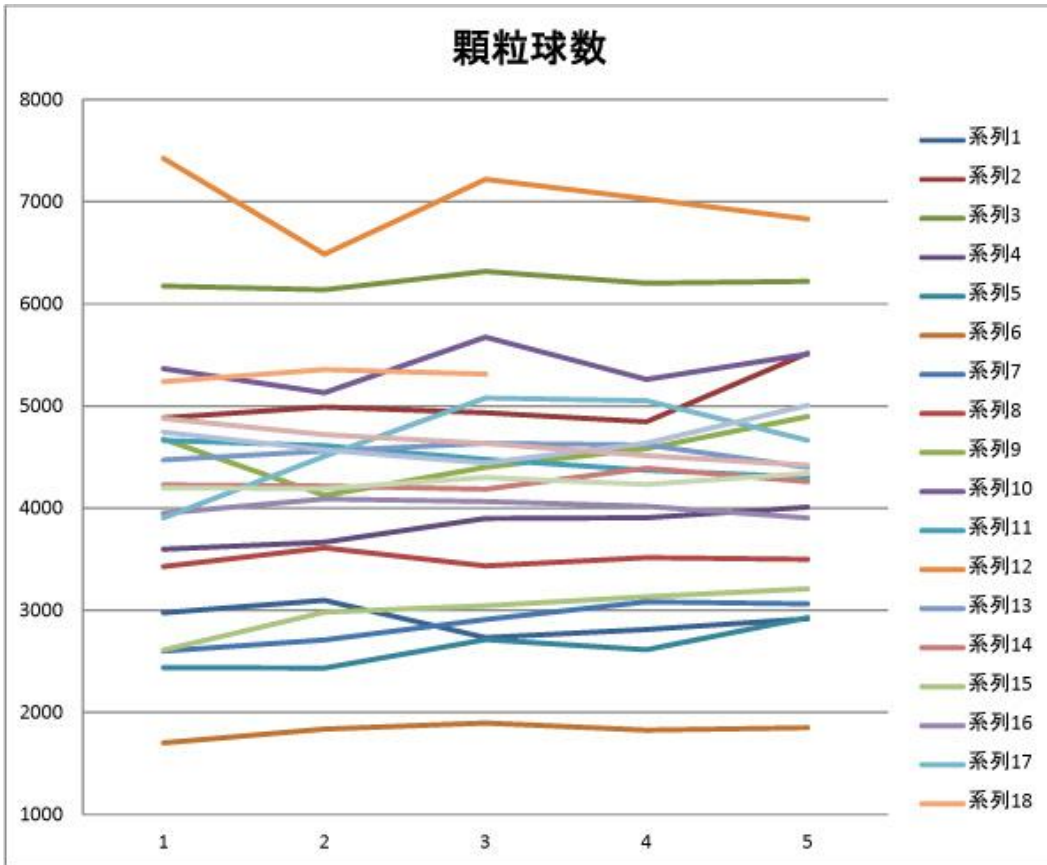
特に注目したいのは、HTです。最大値と最小値の変化率を見ると、個人差が大きいのですが、1番の荒木さんのように90.5%にまで減少された方もいました。ここで、HTは血球の固形成分の割合を表しますので、HTの減少は液体成分の増加を意味します。つまり、唾液アミラーゼの検査結果と合わせて考えると、交感神経抑制作用によって末梢血管が拡張し、このままでは脳循環血液量が減少して、起立性低血圧、いわゆる立ちくらみを起こします。それを補償するために、組織液が血管内に移行し、その結果HTが減少したと考えられます。唾液アミラーゼの交感神経抑制作用とHTの減少傾向が共に平行して持続しているのもそれを裏付けているように思われます。

ただ、HTがほとんど不変の方も数人いましたので、理由解明には全身の循環動態の把握が必要です。もともと、血圧が低くてこれ以上血管を拡張することが危険な状態だったのか、あるいは、末梢血管が交感神経に対して感受性が弱かったのか、いくつかの理由が想像できます。これを確かめるには、[循環血液量=心拍数×心拍出量]ですので、血圧・脈拍数の測定、心エコーによる心拍出量の測定などの裏付けが必要になると思います。降圧剤のうちアルファブロッカーが同じような機序で、血圧を低下させるのですが、副作用として立ちくらみを起こすことがあります。しかし、施術後、立ちくらみを起こした方はいませんでした。ですから、筋整流法の施術では、生体がうまく機能してホメオステシスを維持していると思われ、高血圧の方にはマイルドな降圧効果を示しますが、正常血圧の方は血圧低下を起こさないということが予想されます。このことは、薬に頼らない、安全な高血圧管理に繋がるということで、今後の大きな課題となるでしょう。

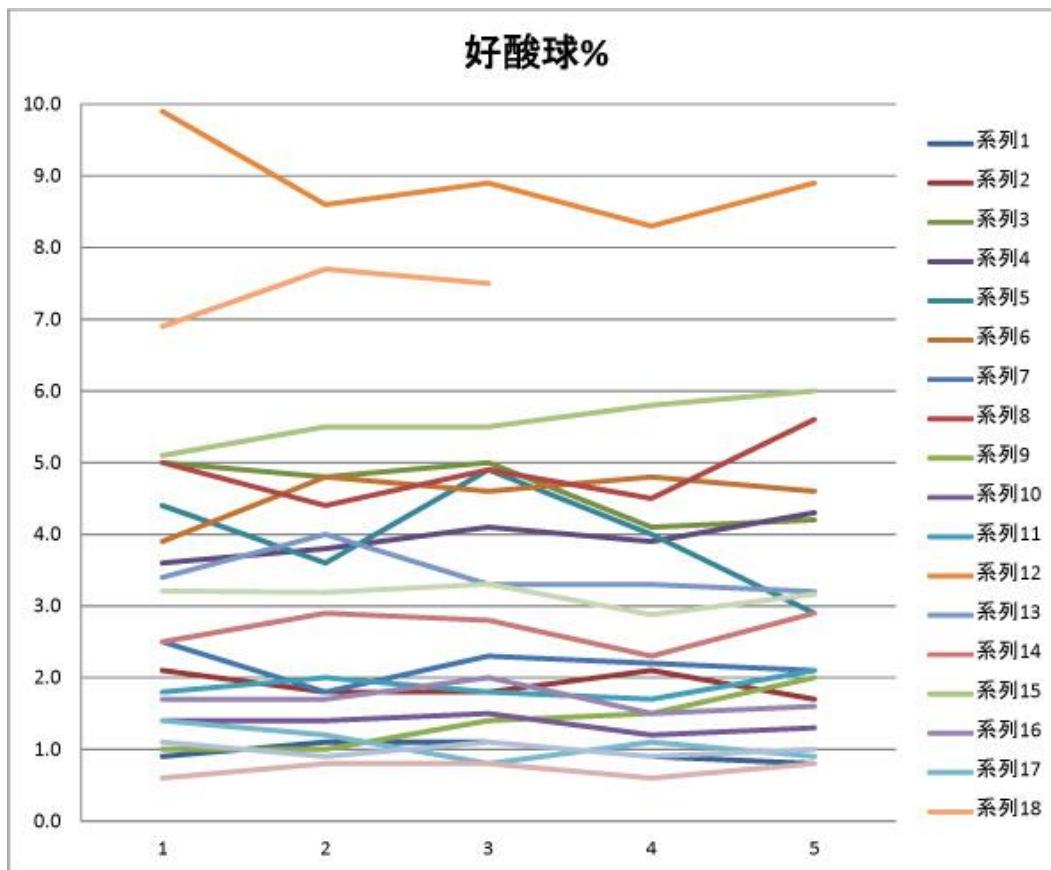
② 白血球系



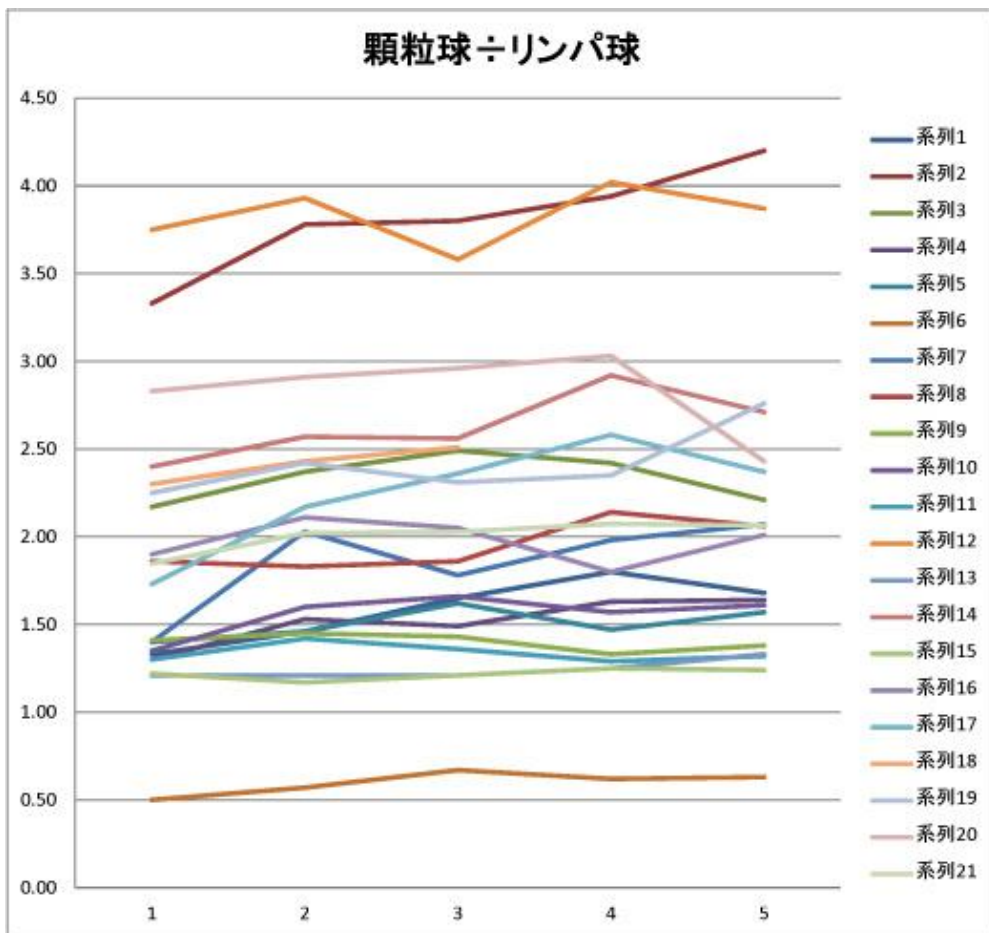
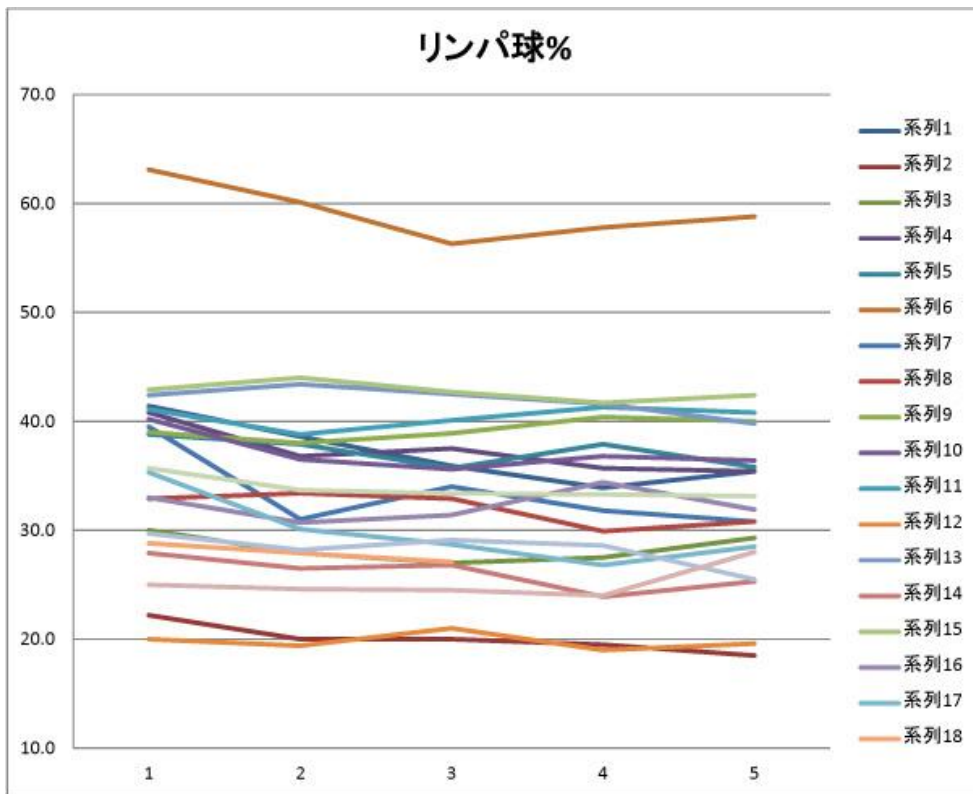
白血球は血小板とともに血液中の固形成分としては割合が少ないので、数に大きな変化は見られないと思います。



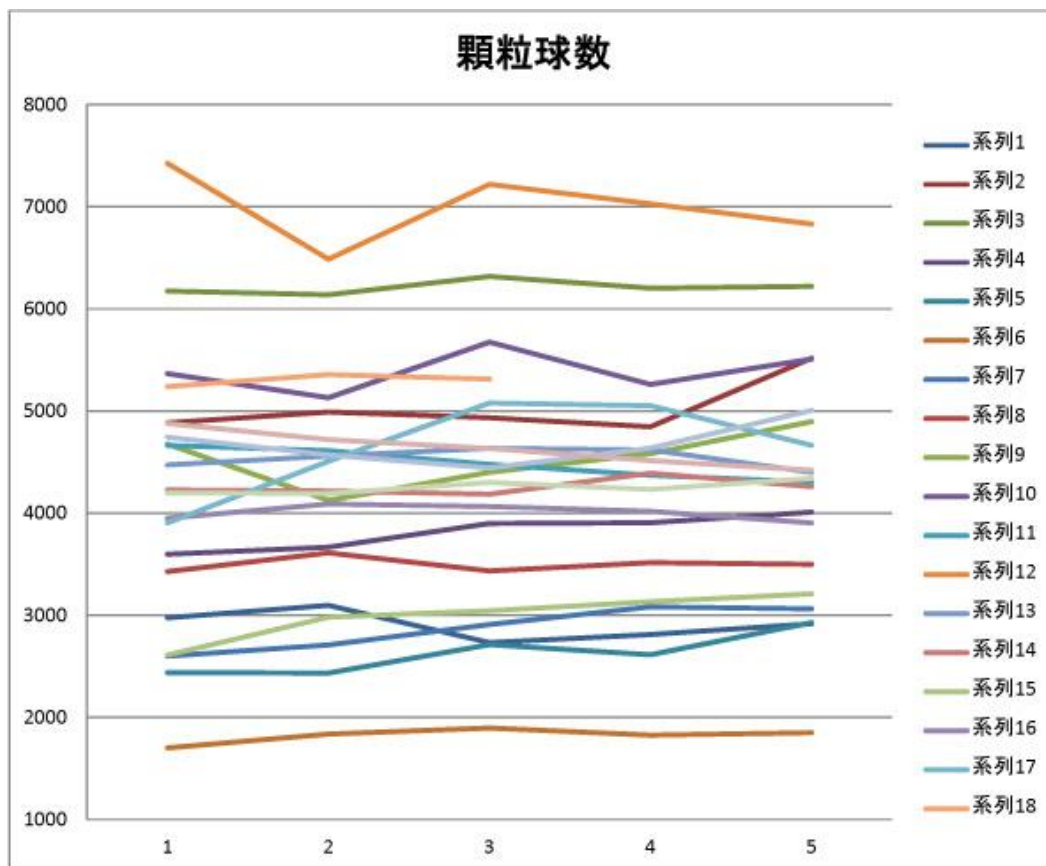
顆粒球の割合は増加傾向がみられますが、これは大部分を占める好中球の増加を反映していると思います。



好酸球については、1 2 番の金沢さんがやや多めでしたが、好塩基球とともに割合も数も少ないので、今回有意差は無いと思います。



一方、リンパ球の割合は減少傾向が見られ、その結果、顆粒球÷リンパ球は増加しています。



ここで、数に注目すると、顆粒球の数は不変なのに対して、リンパ球の数は減少傾向が見られます。

つまり、リンパ球の単独の変化によるものだと言うことが分かります。HTの変化の時に述べましたが、組織液が血管内に入ってきたことによる影響も考えなければなりません。しかし、6番の中澤さんは、HTにほとんど変化が見られなかったにもかかわらず、リンパ球の数が3407から2815と83%まで減少しました。したがって、血液循環系とリンパ球の変化には相関関係がないということになります。

ここで、リンパ球が減少した理由については、血管外への移動がまず考えられます。

筋整流法には、リンパ総管圧迫という独特の施術法があり、その効果を検証できず、悶々としていました。ところが、今回幸運にも、その効果を偶然実証できたかも知れないと思い、非常に興奮しています。

つまり、左上胸部の圧迫により、リンパ総管のポンプ作用で全身のリンパの流れが加速され、その結果、リンパ球がリンパ節などに集積したため、血管内に環流するリンパ球が減少し、結果的に末梢血液内のリンパ球の数と割合が減少した、という可能性が大きいと思われます。もちろん、施術部位の血管外組織などへの移行もあると思いますが、実証は難しいと思います。

それよりも、施術は局所的の様に見えても、実際は、その効果は全身のリンパの流れに影響を及ぼしていると考えられるのです。つまり、免疫システムが活性化され、解毒、浄化が行われたということになります。これは、本当に凄いことです。世の中に、局所的なリンパマッサージや、リンパ某など、いろいろ溢れていますが、ここまで、明確に数字で効果が実証されたのは恐らく無いと思われま

これを更に確定させる方法があります。先ほど、リンパ総管について述べましたが、右上肢のリンパ系の流れは、右鎖骨上窩の圧迫で行います。そこで、左上胸部のみの圧迫、右鎖骨上窩のみの圧迫、両部位の圧迫、圧迫無しの基本施術のみという4つのグループに分けて、リンパ球の数の変化を比べてみると効果がはっきり分かります。

他にも、アイソトープや色素などを使わない、非侵襲的で簡単な検査方法をご存じでしたら是非試したいと思います。ただ、15番の深津さんのように上昇した方や、あまり変化のない方もあり、今後検討が必要と思います。